

九産大サッカー部 第63回全日本大学サッカー選手権大会出場



ANTENNA 02

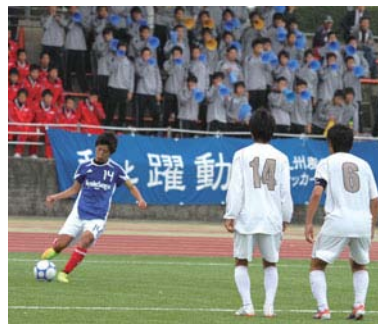
九産大は、昨年11月8日(土)に、第29回九州大学サッカーリーグ第17節で、九州共立大学と対戦。リーグ得点王に輝いた無津呂武瑠選手(商学部 観光産業学科2年・東福岡高校)が2ゴールを決め、5対1で快勝しました。ファーストステージを2位で折り返し、セカンドステージも4勝2敗2分と順調に勝ち進んできた九産大。この



リーグ得点王に輝いた
無津呂選手



試合に勝利後の
サッカー部の
選手たち



九州共立大戦の様子



全国大会出場が確定し、喜ぶ九産大イレブン

試合で、最終戦を待たずに3位が確定し、全国大会出場が決定しました。全日本大学サッカー選手権大会は、各地区の代表24大学が大学日本一を争う大会で、12月11日(木)から関東地区で開催されました。九産大は、総理大臣杯の覇者である流通経済大学との1回戦で、後半戦の終盤まで0対0と熱戦を繰り広げましたが、連続得点を許し、0対2で惜敗しました。皆さまのご声援ありがとうございました。

ANTENNA 01



九産大硬式野球部 第45回記念 明治神宮野球大会出場



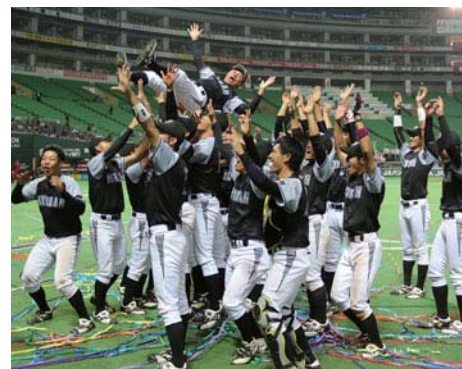
九州大学野球選手権大会表彰式後の選手たち



決勝の日本文理大戦でノーヒット
ノーランを達成した高良投手



準決勝で力投を見せる
浜田投手



明治神宮出場を決め喜びを分かち合う選手たち

九産大硬式野球部が、第21回九州大学野球選手権大会の決勝戦で4年ぶり7度目の優勝を果たし、明治神宮野球大会への出場を決めました。昨年10月25日(土)に福岡ヤフオクドームで行われた準決勝では、九州共立大学と対戦。浜田智博投手(経済学部経済学科4年・宮崎工業高校)が先発し、7回までを2失点に抑え、九産大が3対2で接戦を制しました。翌日の決勝戦では、先発の高良一輝投手(経済学部経済学科2年・興南高校)が10奪三振の好投でノーヒットノーランを達成、日本文理大学に6対0で快勝し

ました。快挙を達成した高良投手は「9回はノーヒットノーランを少し意識していました。達成できてうれしい」と喜びを語りました。
この勢いで臨んだ明治神宮野球大会では、11月14日(金)の1回戦で中部学院大学と対戦。九産大は4回に森松裕次郎選手(経済学部経済学科3年・延岡学園高校)のホームランで先制し、試合の流れを引き寄せました。しかし、7回に追いつかれ、延長10回タイブレークの末、2対4で惜しくも勝利を逃しました。皆さまのご声援ありがとうございました。

田中達也選手が ロアッソ熊本に入団決定



俊足を生かした突破力が持ち味



田中 達也 選手
福岡県福岡市出身。172センチ、69キロ。FW。7歳の時からサッカーを始め、2005年にアビスパ福岡U-15に所属。九産大では1~3年次まで九州大学選抜チームに選出。大学1年次より、ロアッソ熊本特別指定選手としてプレー。



九産大サッカー部の田中達也選手(経済学部経済学科4年・東福岡高校)が、Jリーグのロアッソ熊本に入団することが決まりました。
田中選手は、1年次より、ロアッソ熊本に特別指定選手として所属。プロ選手に混ざってプレーし、意識と技術を磨いてきました。また、1年次から3年連続で九州大学選抜プレーヤーに選ばれ、第29回九州大学サッカーリーグでは、アシスト王に輝くなど活躍。今年度は

サッカー部の副キャプテンとして、チームをけん引し、全国大会出場に貢献しました。
田中選手は、「自分の武器は、ドリブル。特別指定選手としてプレーする中で、ドリブルを一生懸命磨けばプロでも通用すると自信ができました。今後は、より高いレベルの技術を身に付けて、見ている人を驚かせるようなプレーがしたい」と入団にあたっての決意を語りました。

浜田智博投手がドラフトで 中日ドラゴンズから2位指名



「バンザイ投法」とも言われる変則
フォームの左腕



浜田 智博 投手
宮崎県宮崎市出身。183センチ、75キロ。左投・左打。5歳の時から野球を始め、高校3年の春、甲子園に出場。九産大では1年次春から福岡六大学野球のリーグ戦に出場し、2014年7月にはハーレムベースボールウィークの大学日本代表に選ばれた。

九産大硬式野球部の浜田智博投手が、昨年10月23日(木)に行われたプロ野球ドラフト会議で、中日ドラゴンズから2位で指名されました。
セツポジションからグラブを高く持ち上げる独特なフォームで、最速144キロの直球と4種の変化球を投げ分ける浜田投手。昨年の福岡六大学野球春季リーグではMVPに輝き、全日本大学野球選手権でのベスト8進出に貢献しました。

宮崎工業高校時代、プロを目指したもののドラフトでは指名されず、九産大への進学を選んだ浜田投手。大学では、4年後にプロになるという強い意志を持って、直球のキレや制球力に磨きをかけるなど、急成長を遂げました。
浜田投手は「4年間で直球のコントロールに自信ができました。九産大に入って良かったと思います。独特のフォームはプロでも貫きたいです」と抱負を語りました。

ANTENNA 05



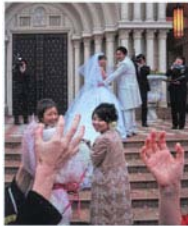
藤元さんの作品「Missing Half〜ネパールの少女売買」(4枚組のうちの1枚)



鳥袋さんの作品「雨上がり」



「ネパールでもあまり知られていない現実を、現場から伝えたいと思い取り組んできたテーマです。人の表情など何気ない瞬間を見逃さないように心掛けました」と上野彦馬賞を受賞した藤元敬二さん



緑木さんの作品「ナイスキャッチ」

第15回 上野彦馬賞 —九州産業大学フォトコンテスト—表彰式

「第15回 上野彦馬賞—九州産業大学フォトコンテスト—」の表彰式が、昨年11月1日(土)に行われました。このコンテストは若い写真家の発掘と育成を目的に創設されたものです。15回目となる今回は、一般部門、高校生・中学生部門、ファミリー部門に総計3517点の作品が集まりました。

一般部門の最高賞、上野彦馬賞を受賞したのは、藤元敬二さん(広島県)の「Missing Half」(ネパールの少女売買)です。人の尊厳にかかわる問題に肉薄し、悲しみの情景が燦(い)銀のような画面に表れ出されていることが評価されました。藤元さんは「日本ではドキュメンタリー写真を表彰する賞が少ないので、とても励みになります」と受賞の喜びを話しました。

高校生・中学生部門の上野彦馬賞ジュニア大賞には、鳥袋亜弥香さん(沖縄県・浦添工業高校)の「雨上がり」

医療診断技術開発センターの研究施設を開設

昨年10月に九州産業大学医療診断技術開発センター(所長 工学部物質生命化学科磯部信一郎教授)の専用研究施設を開設しました。

医療診断技術開発センターは、新規蛍光色素を基盤とした医療診断技術の実用化を目指しています。蛍光色素は、DNAの検出などに欠かせないものですが、国産の製品がなく欧米製品に頼っていました。また、高価で、入手時の品質が不安定であるなどの課題がありました。株式会社アイエスティーは、平成25年に、初の国産免疫染色用蛍光色素(商品名 Fluorid-W)を製品化し、これらの課題を解決する糸口となりました。

医療診断技術開発センターは、学内と学外の研究者、企業と連携のもと、Fluorid-Wの性能強化を行い、新たな蛍光色素の開発を目指します。また、平成30年までにこれを利用した世界初のカラー電子顕微鏡の商品化や、がんなどの疾病に対する新たな診断方法の開発・実用化を推進します。



センター内部



報道陣に説明する磯部教授

ANTENNA 06

TOPICS

教員による学生作品講評(芸術学部美術学科・新啓太郎講師)

美術学科の金属工芸コースでは、^{たがね}鑿と呼ばれる金属用のノミで金属を彫り、作品を制作していきます。彫り直しができない—彫りで表現するために、高い集中力に加え、多くの時間が必要となる作業です。美術学科2年の青木北斗さん(福岡工業高校)が

昨年制作した作品「一か八か」は、水中の鯉が水面の蛙を捕らえようとする様子を表現しました。新講師は「繊細かつ大胆な表現とその随所に見られる新たな試みが詰まっており、緊張感と伸びやかさが相まった見応えのある作品」と評価しています。



青木さんの作品「一か八か」

地域との交流を広げる光のプロジェクト DREAM ART GARDEN 2014

工学部 住居・インテリア設計学科4年 佐藤 史弥さん(九産大付属九州産業高校)



「卒業研究である今回のプロジェクトが、地域との交流に役立てて良かったと思います」と佐藤さん

住居・インテリア設計学科4年の佐藤さんが、約1000個の灯籠で、学内を照らすプロジェクト「DREAM ART GARDEN 2014」を企画実行しました。

3年次まで、諫見研究室で「さくたのうなでのライトアップ(那珂川町)」や「マリンワールド海の中道のインテリア照明」などの学外連携プロジェクトで経験を積んできた佐藤さん。「これまで、学外のプロジェクトが多かったため、今回は、九産大に地域の方々に来ていただきたいと思い、企画しました」と意気込みを話しました。

佐藤さんは、この企画を福岡市東区役所が主催する「東区いきいきまちづくり提案事業」コンペに応募。見事当選し、プロジェクト実施のた



地域に根ざした九産大にちなみ、木の形をイメージして並べられた灯籠。学内が温かい光で包まれました



灯籠は、地域の複数の保育園の園児たちが制作。家族をテーマに描きました

めの費用を獲得しました。また、自ら地域の保育園を回り、園児たちに絵を描いてもらえるよう依頼。家族をテーマに描いた園児たちの絵で、灯籠を作りました。

昨年11月14日(金)、15日(土)に実施された「DREAM ART GARDEN 2014」では、佐藤さんを中心とした学生たちが、約1000個の灯籠を、学内に一つ一つ配置。「地域に根ざした大学である九産大」にちなみ、木の形をイメージして並べられた灯籠が、キャンパスを幻想的に照らしました。

訪れた地域の方々からは、「描いた絵がきれいに照らされていて子どもが喜んでいた」「大学と親しめる良い機会になった」などの感想が聞かれました。

ANTENNA 04

九産大が開発した検査方法を使って 古賀市との連携による橋の調査を実施

工学部 都市基盤デザイン工学科



「実験室でうまくいったことが、現場では通用しないこともありました。大変でしたが、やりがいの大きい調査でした」と笑顔で振り返る久保さん



2カ月にわたり、古賀市内6カ所の橋の劣化状況の調査を行いました

工学部都市基盤デザイン工学科の豊福俊泰教授と学生たちが、実践的教育(KSUプロジェクト型教育)および卒業研究の一環として、昨年8月から10月にかけて、福岡県古賀市内の6カ所の橋の劣化状況調査を行いました。

この調査は、昨年7月1日(火)に締結した九州産業大学と古賀市の包括的連携協定に基づくものです。九産大が開発した非破壊検査方法を用いて、サンプルを採取し、橋のコンクリートの状況を調べました。調査では、コンクリートの劣化が進行していて、作業用の粘土が調査部位にくっつかず、その都度改良するなどの苦勞もありました。学生たちは、現場で工夫しながら問題点を克服し、

無事調査を終えました。

リーダーの都市基盤デザイン工学科4年の久保健人さん(糸島高校)は、「実験室と現場で作業環境の違いがあり、苦勞しました。今回、リーダーとしてみんなをまとめる立場でしたが、仕事として指示を出すことの難しさを痛感しました。社会に出る前に、このような実践的なプロジェクトを経験できて良かったと思います」と、今回の体験の意義を話しました。

調査結果は、古賀市に報告し、詳細調査の補完データとして、修繕措置対策工法の決定資料に活用される予定です。その後も、新宮町の橋の調査を行うなど、九産大の技術を活用した地域貢献は続いています。

ロボコン「スマートデバイスGP」で1位入賞

情報科学部 情報科学科4年 小山 勝弘さん(中村学園三陽高校)、松本 啓輔さん(福岡西陵高校)

情報科学科4年の小山さんと松本さんのチームが、昨年10月18日(土)に行われた、ロボットコンテスト「スマートデバイスGP」福岡大会で1位になり、全国大会進出を決めました。このコンテストは、各自が組み立てたロボットの走行スピードや正確性を競うものです。

二人は、「福岡大会では、ロボットがコース上の黒線を認識しやすいように、プロックで光センサーの周りを覆うなど工夫しました。大会当日は、短い時間の中でプログラミングを調整し、ベストの状態でのコンテストに臨めました」とコンテストを振り返りました。

福岡大会では、同学科4年の上田亜弥士さん(京都高校)と山路将貴さん(筑紫中央高校)のチームが2位、原智英さん(高校卒業程度認定試験)と松本瞭平さん(中村学園三陽高校)のチームが6位になりました。



「全国大会でもいいレースをして、初代チャンピオンを目指します!」と意気込む小山さん(右)と松本さん(左)

ANTENNA 10



試合当日は、小山さんが走行を担当、松本さんがプログラミングを担当。本番は練習よりもいいタイムが出せました

ANTENNA 11



1年次から計画的に勉強し、たくさんの資格を取得しました



「やりたくないときほど、勉強するように心掛けました」と合格のコツを話す寺嶋さん

日商簿記検定1級、 全国経理教育協会簿記能力検定上級合格

経済学部 経済学科4年 寺嶋 翔士さん(高校卒業程度認定試験)

経済学科4年の寺嶋さんが、昨年、難関といわれる、日商簿記検定1級と全国経理教育協会簿記能力検定(全経簿記)上級に合格しました。

2年生の時、キャリア支援センターの講座を利用して、簿記の勉強を始めた寺嶋さん。2年次に日商簿記3級、3年次に2級に合格しました。簿記の勉強をするうちに、公認会計士という職業を知り、将来の仕事として目指すようになりました。今は、国家資格である公認会計士試験に向けて勉強中です。「日商簿記検定1級への挑戦も、公認会計士試験の勉強に役立ちます」と寺嶋さん。「簿記試験は、講座を利用したので、理解しやすかったことも合格の一因だと思います。今の目標は、公認会計士試験に合格すること。早く資格を取得し、将来は独立も視野に、仕事をしていきたいと思っています」と将来の夢を語りました。

九産大留学生が TVリポーターとして活躍中!

国際文化学部 臨床心理学科4年 グリミル ジュラティさん(中国 新疆ウイグル自治区出身)

中国新疆ウイグル自治区出身の臨床心理学科4年のグリミルさんが、テレビの留学生リポーターとして活躍しています。

グリミルさんが担当しているのは、福岡在住の留学生が県内の魅力を伝える「ふくおか新発見」。授業のない日に口ケを組むなど勉強との両立を図っています。他にも、シンガポールで放送される「HELLO! JAPAN」という番組のリポーターも務め、阿蘇や湯布院などでの口ケも経験しました。

イスラム教徒のグリミルさん。取材中、宗教上の理由から食べられない食材が出てきて取材を他の人に代わってもらうなど戸惑うこともありましたが、グリミルさんは「口ケで日本とウイグル族の文化の違いを知ることもあるので、勉強になります。卒業後も、リポーターの仕事にチャレンジしたいですね」と夢を語りました。



FBS「ふくおか新発見」(毎週土曜日 16:55~17:00)に出演しています



番組で元気いっぱいのおしゃべりと明るい笑顔で、福岡の魅力を伝えるグリミルさん

ANTENNA 12

「女子留学生日本語弁論全国大会」で第3位に入賞

経営学部 国際経営学科4年 ダン ミン タオさん(ベトナム出身)

ベトナム出身の留学生、国際経営学科4年のダンさんが、昨年10月12日(日)に行われた「第18回女子留学生日本語弁論全国大会」で第3位に入賞しました。

国連NGO世界平和女性連合が主催するこの大会には、全国8つの地域の最優秀受賞者が出場し、日本語によるスピーチを競いました。

ダンさんは、日本に来て戸惑ったり、つらかったりした経験と、現在は有意義な留学生生活を送っていることなどを「私の日本留学生生活」というテーマで、堂々とスピーチしました。

九産大の留学生日本語弁論大会にも毎年出場していたダンさん。「九産大の弁論大会の出場経験は役立ちました。全国大会の出場が決まってからも、たくさんの方にスピーチを聞いていただき、練習をしたのが良かったと思います」と笑顔で話しました。



入賞したダンさん。大会当日はベトナムの民族衣装を着てスピーチしました



8人の出場者のなかで見事3位に選ばれました(ダンさん・写真中央)

ANTENNA 08



最優秀賞を受賞した津田さんの作品



「入学後、やりたいたことが増えました。早く打ち込めるテーマを見つけないですね」と話す津田さん



【最優秀賞】津田 華澄さん(八幡中央高校)
【優秀賞】永野 日向子さん(武蔵台高校)、柿山 ゆかりさん(折尾高校)
【佳作】金子 未来さん(筑陽学園高校)、築地原 涼子さん(三池高校)、安樂 葉月さん(筑前高校)

「全国地域安全運動モデルポスターコンクール」 (一般の部)で最優秀賞を受賞

芸術学部 デザイン学科1年 津田 華澄さん(八幡中央高校)

デザイン学科1年の津田さんが、福岡県防犯協会連合会が主催する平成26年度全国地域安全運動モデルポスターコンクール(一般の部)で、最優秀賞を受賞しました。また、優秀賞、佳作もデザイン科1年の学生が受賞。応募総数290点のうち、6人に与えられる賞を本学学生が独占しました。

最優秀賞を受賞した津田さんの作品は、振り込め詐欺の危険性をテーマにしたものです。制作中は、学生同士で作品を見せ合ったり、意見を交換しながら仕上げました。「詐欺への注意を呼びかけるものなので、第一印象で怖いイメージになるよう意識しました。被害の減少に貢献できればうれしいですね」と笑顔で受賞の喜びを語りました。

「海外旅行企画コンテスト」で 最優秀賞受賞

商学部 観光産業学科 乾ゼミナール グループ

商学部観光産業学科3年の乾ゼミナールの学生グループが、日本旅行業協会主催の第1回「若者よ、もっと海外へ」海外旅行企画コンテストで最優秀賞を受賞しました。

若者の海外旅行の振興を図ることを目的にしたこのコンテスト。受賞した企画は、「海外から日本文化を再認識する旅」哈日族(ハリーズ)との交流文化を創りあげる」というタイトルで、既存の観光名所だけでなく、台湾の大学での若者同士の交流を旅行として取り上げるユニークなものです。

選考では、アイデアはもちろん、若者の海外旅行の状況分析など、背景までしっかり検証しているところが、評価されました。

リーダーの眞鍋和明さん(直方高校)は、「時間がないうちで、まとめ上げるのは大変でした。仲間の支えがあったから、受賞できたと思います」と受賞の喜びを話しました。

コンテストでは、同学科の大方ゼミナールの学生グループも優秀賞を受賞しました。



眞鍋さんは「グループ以外の仲間も、差し入れを持ってきたり、励ましてくれたりしました」と感謝を述べました



乾ゼミナールのメンバー、眞鍋 和明さん(直方高校)、黄 虹瑋さん(台湾)、塚 愛里さん(久留米信愛女学院高校)、矢原 優治さん(博多青松高校)

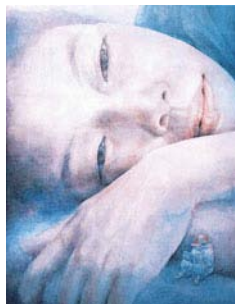
ANTENNA 09

「第70回福岡県美術 展覧会(県展)」の洋画 部門で県知事賞受賞

大学院芸術研究科 造形表現専攻1年
梶野 萌実さん(九産大付属九州高校)



ANTENNA 14



梶野さんの受賞作「ハバラペー①」

造形表現専攻1年の梶野さんが、「第70回福岡県美術展覧会(県展)」洋画部門で、最優秀賞である県知事賞を受賞しました。受賞作は、高校時代の友人とオリジナルのキャラクターを描いた「ハバラペー①」。

梶野さんは「これまで友人と積み重ねてきた時間への思いを絵に込めました。今後は、自分が納得できるものを描いていきたい」と決意を話しました。

梶野さんの他にも、日本画部門で第70回記念賞を芸術学部美術学科2年の赤司真里菜さん(筑紫台高校)が、洋画部門で朝日新聞社賞を同学科4年の外山真さん(宮崎学園高校)が、彫刻部門で朝日新聞社賞を大学院芸術研究科1年の今村真由美さん(ありあけ新世高校)がそれぞれ受賞しました。



「初心を忘れず、描き続けます」と笑顔で話す梶野さん

日本数学会より 「2014年度解析学賞」 受賞

工学部 バイオロボティクス学科
濱田 英隆教授



ANTENNA 16



賞状を手に受賞の喜びを語る濱田教授

業績題目: 多変数のLoewner微分方程式と等質単位球上の正則写像の研究

濱田英隆教授が、日本数学会より「2014年度解析学賞」を受賞しました。

解析学賞は、解析学および解析学に関連する分野において著しい業績を挙げ、数学の発展に寄与した研究者に対し授与されるものです。濱田教授の、「多変数のLoewner微分

方程式と等質単位球上の正則写像の研究」が評価されました。

濱田教授は、「この度は、精力的に取り組んできた研究内容をご評価いただき、とてもうれしく思っています。これからも研究活動を重ね、少しでも数学の発展に貢献できればと思います」と話しています。

「第18回全国きもの デザインコンクール」で 優秀賞(銀賞)受賞

芸術学部 美術学科2年
赤司 真里菜さん(筑紫台高校)



ANTENNA 13



白い地色に水色の時計草が映える赤司さんの作品

美術学科2年の赤司さんが、全国染織連合会主催の「第18回全国きものデザインコンクール」(一般/手描の部)で、優秀賞(銀賞)を受賞しました。

1年生の時に、応募したものの受賞を逃し、再チャレンジで見事受賞しました。受賞作は、時計草をモチーフにした華やかなデザインで、白い色の表現などに、日本画コースで学んだ技術を生かして描きました。

赤司さんは「今後は、コンペや展覧会など、もっと上を目指して挑戦を続けたいと思います」と抱負を述べました。

「第62回ニッコール フォトコンテスト」で 推選を受賞

芸術学部 写真映像学科1年
比嘉 緩奈さん(浦添工業高校)



ANTENNA 15



「僕らのまち」



「高校時代から撮り続けている地元の市場の写真です。評価してもらえてうれしい。今後は、自分が何のために写真を撮るのか、その意義を見つけていきたいと思います」と話す比嘉さん

